

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	上位目標: 対象地域における母子保健(MNCH) 状況が改善する
(2) 事業内容	事業は計画通り実施されている。本報告期間(2014 年 7 月 7 日～10 月 31 日)には以下の活動を実施した。効果に関する写真は別添を参照されたい。 活動 0: 事業調整活動 本事業(シャン州コーカン自治地域における基礎母子保健システム構築支援プロジェクト: フェーズ 2) 開始時に 49 人のスタッフを雇用した。そしてフェーズ 1(2013 年 7 月～2014 年 7 月実施)の成果・課題を共有するため、県レベルでのアドボカシーミーティングを 10 月に開催した。同ミーティングにはコーカン自治政府の中央委員会、ラオカイ県行政官、ミャンマー政府保健省、国境省、国家計画経済開発省、世界食糧計画(World Food Programme, WFP)の他、コーカン自治地域で活動する NGO など関係諸機関が参加し、本事業(フェーズ 2)で取り組む活動内容等について理解を深めてもらい、一層の協力を取り付けることができた。 活動 1: 地域に根差した母子健康増進活動の環境整備 本報告期間中、主に以下 5 つの活動を実施した。 1) MNCH プロモータートレーニング 内部研修を受講した本事業のスタッフが講師となり、フェーズ 1 で選出された MNCH プロモーター(697 人)に対し 2 種類のトレーニングコースを実施した。1 つ目は 3 日間の MNCH コースで、7 月～9 月にかけて 51 回実施し、全受講対象者(フェーズ 1 期間中に受講できなかった 575 人)¹のうち、436 人が参加した。MNCH プロモーターの役割と責任、妊産婦健診や予防接種の重要性、妊娠時および出産時の注意点、栄養、家族計画、水と衛生、新生児ケア等のトピックを取り上げた。2 つ目は、1 日間の応急手当コースで、7 月～10 月に 113 回実施し、513 人の参加を得た。怪我、やけど、出血の処置等について学んだ²。両コースとも、フェーズ 1 実施中に作成したフリップチャート、ハンドブックを活用した。 2) 月次ミーティング 9 月に MNCH コースが全対象村で終了したことに続き、10 月より月次ミーティングを開始した。ミーティングでは MNCH プロモーターや准助産師による自身の活動の振り返り、MNCH プロモーターの役割の再確認、活動を実施する上で生じた問題に対する対応経験の共有が行われた他、MNCH プロモーターが各村で実施する健康教育の内容や翌月の活動計画などの確認を行った。 3) 啓発グッズの作成 MNCH プロモーターの存在と彼らの活動を広く知らせるための啓発グッズとして、プロモーターが着用する帽子を 8 月に作成した。(11 月以降配布する予定。) 4) 基金運営状況のモニタリング パイロット 9 村で運営されている搬送基金は、本報告期間中に医療支援 6 件、農業支援 4 件に活用された³。各村とも実際の活用事例を検討し、適宜規定を見直しながら運営している。本事業スタッフは月次ミーティングの機会を利用し、その運営状況をモニタリングし、必要に応じた助言や技術的指導を行った。 5) 水と衛生改善活動 水と衛生改善活動を実施する予定の対象 3 村において調査を行い、特にモデルトイレおよび飲料水供給システムの建設に必要な資材を再確認した。建設は 11 月から開始する予定である。 活動 2: 保健行政スタッフ(基礎保健スタッフ、准助産師)の育成・技術向上支援

本報告期間中、主に以下 3 つの活動を実施した。

1) 准助産師養成研修

フェーズ1から続く准助産師育成支援では、16 人の准助産師訓練生が 2014 年 5 月中旬から始まった 3 か月の実地訓練を終了し、8 月 19 日の卒業式をもって全員が准助産師の資格を得た。翌月 9 月 17 日には、次の准助産師訓練生 16 人の養成研修を開始した⁴。研修の前半 3 か月(12 月 18 日まで)はラオカイ県病院内で講義を受け、後半 3 か月は 3 つの保健医療施設(パーセンジョー地域保健センター、ターシュウェタン地域拠点病院、コンチャンタウンシップ病院)に分かれ実地訓練が行われる予定である。

2) 基礎保健スタッフリフレッシュートレーニング

基礎保健スタッフを対象としたリフレッシュートレーニングは、8 月以降 2 回実施され、伝染病コントロール(8 月)と母子および新生児ケア(9 月)をテーマに延べ 26 名が受講した。

3) 啓発グッズの作成

基礎保健スタッフや准助産師が着用し、彼らの存在と公的保健医療サービスに対する認知度を高めてもらうための啓発グッズとして、シャツを 8 月に作成した。(11 月以降に配布する予定)

活動 3: 母子保健サービス提供支援

本報告期間中、主に以下 3 つの活動を実施した。

1) 子どもの成長記録活動(GMP)

子どもの成長記録活動は、本事業スタッフ支援のもと、すべての村の母親グループ⁵および MNCH プロモーターが中心となって毎月実施され、本報告期間中に合計 8,705 名の子ども(6 カ月～5 歳未満)の成長が記録された。また GMP の機会を利用した健康教育(栄養、リプロダクティブヘルス、個人衛生など)も、母親グループおよび MNCH プロモーターが中心となって実施された。本事業で資格を得た准助産師がいる村では、彼女たちも参加して MNCH プロモーターの活動をサポートしたり、母親に対する保健教育を行ったりした。

2) 予防接種支援

ラオカイ保健局によって毎月実施される予防接種活動⁶が、基礎保健スタッフ、准助産師、MNCH プロモーター、母親グループメンバーなどの保健アクターによって実施されるための側面支援(ワクチンの運搬や当日の通訳など)を行った。MNCH プロモーターや母親グループメンバーは、対象者に予防接種日を事前に伝える他、予防接種当日の呼び掛けや基礎保健スタッフのサポートを行った。なお本報告期間中に、延べ 596 人の母子が予防接種を受けた。

3) リプロダクティブヘルスサービス

¹ フェーズ 1 で実施したトレーニングには、受講対象者 122 人のうち 83 人が参加した。

² 応急手当コースでは 12 のトピックを各村 3 回に分けて実施する。本報告期間中に実施した第 1 回目(1 日間)では、怪我ややけどの処置など 5 つのトピックを扱った。残りの 7 トピックは、今後月次ミーティングの機会を利用したトレーニングにおいて引き続き学んでいく。

³ 第一目的が搬送であったため搬送基金と呼んでいるが、無利子で貸し出す搬送費用や医療費支援に留まらず、農業や教育といった分野において有利子で資金を貸し出して基金を活用する部分もある。返済方法、返済期間などは各村の規定による。

⁴ 本養成研修では、コーカン自治地域の本事業対象村以外の村で支援を行っている国際 NGO:HPA(Health Poverty Action。イギリスに本部を置く国際 NGO。コーカン自治地域において 9 村区 157 村で栄養、生計向上、水と衛生改善活動、予防接種などの活動を行っている。)が活動する村からも 6 名の候補生を受け入れ、合計 22 名がともに研修を受講している。なお、この 6 名にかかる研修費用は、HPA が負担している。

⁵ 先行事業(母子保健事業:2010 年 7 月～2013 年 7 月、日本 NGO 連携無償資金協力)にて育成された母親ボランティア。

⁶ ターシュウェタン地区では地域保健センターにて月に一度、市が立つ日(5 日毎)から選んで実施されている。シャオカイ地区では月の最後の市の日にコンチャンタウンシップ病院スタッフが当法人シャオカイ連絡事務所を利用して実施している。コンチャンタウンシップ病院(コンチャン地区)およびラオカイ県病院においては、市が立つ日(5 日毎)すべてで実施される。その他、特に遠隔村では基礎保健スタッフが訪問するアウトリーチ活動にて予防接種を提供している。

	本報告期間中、延べ 348 人(1 回目:200、2 回目以降:148)に対する妊産婦健診と 75 人に対する産後健診が、基礎保健スタッフと本事業医療スタッフにより提供された。また、延べ 2,943 人に対して、ビタミン剤や鉄剤などの微量栄養素、ピルやコンドームなどの避妊具が配布された。MNCH プロモーターや母親グループメンバーは、妊婦健診の呼び掛けや産後健診先への案内を積極的に行い、微量栄養素の服用方法や効能を説明するなど、リプロダクティブヘルスサービスの提供に積極的に関与した。
(3)達成された成果	1:地域に根差した母子健康増進活動の環境整備 436 人が受講した MNCH プロモータートレーニングコース(7 月～9 月)と、513 人が受講した応急手当コース(7 月～10 月)の際に実施した「事前事後テスト」において、平均 70 ポイントの知識向上が見られた。これまでに実施した活動(フェーズ 1 期間中に実施した MNCH ワークショップ、活動計画策定ワークショップ、そしてフェーズ 1 から継続実施している MNCH プロモータートレーニング、また 2014 年 10 月から開始された月次ミーティング)を通して、MNCH プロモーターの意識および知識は着実に向上しており、母子の健康増進に大きく寄与すると考える。また、9 つのパイロット村で開始した搬送基金は、全村が基金を適切に管理・運営できている。さらに、村の状況に応じて、有利子で貸し出すなど基金の用途も広がり、より持続可能なシステムに改善されつつあることも特筆に値する。本事業で育成された MNCH プロモーターや准助産師らの認知度も徐々に高まり、彼らが中心となってコミュニティーのみならず関係する行政機関と良好な関係を維持し協力を仰ぎながら、協働して各村での母子健康増進活動を進めている。 2:保健行政スタッフ(基礎保健スタッフ、准助産師)の育成・技術向上支援 フェーズ1で開始した 16 名の准助産師養成研修(6 か月コース)が 2014 年 8 月に終了し、全員が准助産師の資格を得た。続く 9 月には 2 期生 16 人の訓練生を対象に養成研修が開始されており、現在 3 か月の講義が実施されている。また、本報告期間において 2 回実施した基礎保健スタッフリフレッシュートレーニングには 84%の基礎保健スタッフが出席し、事前事後テストでは平均 43 ポイントの知識向上が確認できた。 3:母子保健サービス提供支援 MNCH プロモーターと母親グループを中心に、子どもの成長記録は全ての対象村で実施されており、半数以上の村においては自ら行う能力が付き、本事業スタッフによる手伝いは不要となった。また予防接種については、保健局が計画した 72 回の活動のうち、69%にあたる 50 回が実施された。実施に際し、MNCH プロモーター、母親グループが積極的に活動に参加し、基礎保健スタッフや本事業スタッフと協働した。なお、実施率が若干低い理由は、7 月 20 日前後の集中豪雨の影響を受けたものである。対象村区内で 100 か所以上の土砂崩れが発生⁷、元々脆弱な道路インフラが更に悪化し、基礎保健スタッフが予防接種のために村へ行けなかったことが原因である。一方、リプロダクティブヘルスサービスについても、基礎保健スタッフまたは本事業スタッフより、全対象村において定期的実施されている。MNCH プロモーターおよび母親グループメンバーは、妊婦健診、産後健診の呼び掛けや案内を行うなど、基礎保健スタッフと協働し、住民に寄り添う保健アクターとして大切な役割を果たせるようになりつつある。
4)今後の見通し	本事業後半には、こうした新しい保健アクターを対象としたスタディーツアー(公的保健医療施設や活動が順調な村への訪問)、月次ミーティング(搬送基金モニタリング含む)、MNCH プロモーターリフレッシュートレーニングなどを計画に沿って実施する。同トレーニングは、MNCH プロモーターの知識の定着度を再度確認し、実情に合わせてトレーニング計画を組み直した後、2015 年 3 月より実施する予定である。なお、対象 114 村の状況は様々であり、約 700 人の MNCH プロモーター個々人の理解も異なるため、同リフレッシュートレーニング計画の組み直しについては、可能な限りより細やかに対応する。水と衛生改善活動については、11 月下旬から 12 月中旬にかけて、対象 3 村で建設を開始する予定である。

⁷ 公式発表ではなく、本事業スタッフによる目視での確認による。

准助産師育成においては、現在養成中の 16 名の候補生が 12 月中旬より 3 つの公的保健医療施設に分かれ、後半 3 か月の実地訓練に入る予定である。引き続き保健省と綿密なコミュニケーションを維持し、育成プログラムが円滑に進むようサポートする。また、基礎保健スタッフへのリフレッシュ研修を 2 回実施し、更なる知識と技術の向上に寄与する。

各村で実施されている母子健康増進活動については、MNCH プロモーター、母親グループ、基礎保健スタッフ、准助産師間の協働体制を、特にリプロダクティブヘルスサービスの質の向上を念頭に一層強化する。具体的には、基礎保健スタッフが村を訪れる日程を調整したり、本事業へのより積極的な参加を促したり、あるいは月次ミーティングにおいて、MNCH プロモーターと基礎保健スタッフとが課題解決に向けて相互に話し合う機会を設けたりする。

本事業後半期では、これまでに得た理解、知識、計画を再確認しながら、コミュニティがそれらをより円滑、また主体的に実施できるよう側面支援を行っていく。